

(認特) 五ヶ瀬自然学校

# 世界農業遺産の里で行う耕作放棄地対策・環境保全型農業価値理解促進のための交流活動事業

活動地域 宮崎県

ひろげる助成

3年目

実践

イベントの延べ参加者数 **742人**

イベントの満足度・理解度 **100%**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

新型コロナウイルスの影響を考慮して開催するために、国や県が出す規定を基準に判断したが、開催日のギリギリまで感染の広がりを注視する必要があり、非常に難しかった。

### ■ 工夫した点

フットパスについては、参加者を少人数に、さらにリピーターを増やすために顧客リストを作成し、郵送によるダイレクトメールが効果があった。



秋づく！世界農業遺産の目之影町深角フットパス

## 課題

世界農業遺産の価値を住民が認識できていない。農業生物多様性、持続可能型農林業への理解が低い。耕作放棄地増加、農業後継者不足。インバウンド対策。若者への社会教育。

## 目標

世界農業遺産の価値をいかした取組みを移住者も含めた住民が主体となっており、都市住民や外国人観光客とともに継続することで、持続可能な進化した農村の実現を目指す。

## 活動内容と成果

フットパスイベントを15集落で春9回・秋8回計画通り実施、食事処や加工グループが地産地消を意識したお昼ご飯を提供した。山楽校へ行こうを4集落で15回計画し5回中止となったが地元中心で活動を支えた。耕作放棄地対策での農業ボランティアを2集落で38回開催、栽培したトモロコシをお礼に贈った。生き物調査は日本ミツバチに注目しフットパスと合わせて4集落で、巣箱づくりを1集落で実施し、参加者全員がLINEグループでつながり、日々情報交換ができる仕組みを作った。



五ヶ瀬町大石集落 たかきび帚づくりに参加している人々

## 全助成期間の活動を振り返って

この3年間でフットパスは大きく飛躍したと感じている。新型コロナウイルス禍で集客が難しい時期であったにもかかわらず、リピーターがしっかりと付き、受け入れ側の集落住民も自信を持ち始めている。農業ボランティアは集客が難しいが、人手を必要としているので粘り強くやっていくが、都市部の意識が醸成されていないと感じている。生き物調査は専門家から手法は学べたのでスマホアプリを駆使して行う手法を確立する。日本ミツバチの養蜂は非常に奥が深く自然を理解するには良い教材である。



日本ミツバチの巣箱づくり体験

〒882-1201  
宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町大字鞍岡6452番地乙  
電話：0982-73-6366  
E-mail：gns@gokase.org  
HP：http://www.gokase.org



## 今後の展望

フットパスは企画すれば直ぐに定員となる人気企画となった。今後は、外国人観光客に向けて英語でもPRし、平日も視野に入れて開催日数を増やしていく。農業ボランティアは継続しながら、本格的に農業を行う担い手を役場と連携し、農地・住宅・新規就農支援助成金を組み合わせ募集したい。2500年以上行っている日本ミツバチの養蜂は、このエリアの住民の取組みが絶えることの無いようSNSをいかして若者に継承していく。